

肉用牛農場における生産性向上に向けた疾病低減対

策：岡山県津山家保 山崎悠高、柴田大輔

複数の酪農家から和牛 ET 産子を導入する肉用牛繁殖・肥育農場で、子牛の下痢や呼吸器病が多発し、原因究明のため検査を実施。死亡子牛の臓器や気管支肺胞洗浄液から *Pasteurella multocida* 及び *Mycoplasma bovis* が高率に検出され、多剤耐性を確認。抗体検査では免疫付与が不十分と判明。初乳摂取量の不足や、体調不良等によるワクチン接種時期の遅延が原因と考えられた。肺炎は牛呼吸器病症候群、下痢は飼料の消化不良が基礎要因となり、症状が悪化することで生産性を阻害していると推察。以上から、環境・栄養面で同時進行の疾病低減対策を開始。月 1 回の巡回指導では、子牛の発育調査を実施し、飼料給与状況や敷料の状態を確認。関係機関を交えた検討会において検査結果を共有、効率的な清掃手順や有効な消毒薬・消毒方法を提案し、後日改善状況を確認。今後は導入子牛の初乳摂取状況の改善と、定期的な牛舎消毒が継続できるよう、関係者一丸となった協力体制を継続する。